

第6回
環境カウンセラー環境保全活動
表彰受賞者活動報告



CONTENTS

はじめに	1
高橋功	2
環境カウンセラーズおかやま	4
松浦ゆかり	6
横山宏	8
中村優理子	10
中上富之	12
片山愛司	14
(特非)環境カウンセラー千葉県協議会	16
水藻英子	18
(特非)岩手県環境カウンセラー協議会	20

はじめに

環境カウンセラーは、「環境カウンセラー登録制度実施規程」(平成8年環境庁告示第54号)にもとづき、環境省が実施している登録制度です。

長年にわたって市民活動や企業・団体の事業活動を通じて環境保全に関する取り組みに従事し、豊富な経験や専門知識を持つなど一定の要件を備える方で、環境保全活動の推進に資する意欲の有る方を毎年公募し、申請にもとづいて論文審査及び面接審査を行い、所定の基準を満たした方を「環境カウンセラー」として認定・登録しているものです。

環境省では、平成30年度から環境カウンセラーの社会的な認知向上及び環境カウンセリング等環境保全活動の意欲を増進する等を目的として、環境カウンセラーとして実施又は関与する優れた環境保全活動を行っている、環境カウンセラー及び環境カウンセラーを構成員とする団体に対して環境大臣賞等を授与する環境カウンセラー表彰を実施しています。

第6回環境カウンセラー環境保全活動表彰受賞者が決定したので紹介します。

令和6年3月1日

環境大臣賞（市民部門）

高橋 功



表彰理由：岩手県内全域で温暖化対策を推進するため、実践方法の指導に努力している。特に、ダンボール等身近な材料で作った教材を用い、省エネ・再エネを体感する環境教室の受講者が11,000名以上になるなど実績を積んでいる。岩手県環境カウンセラー協議会員としても企業への助言を行っているほか、地元テレビ・ラジオ、新聞などマスコミを通じて省エネの呼びかけや具体的手法の解説に取り組んでいる。

自己紹介

岩手県環境カウンセラー協議会で監事、そして地元滝沢市のたきざわ環境パートナー会議で、わくわくエネルギー教室代表をしています。15年ほど前に行ったエネルギー教室で、参加して下さった子供たちの目が輝いていることに驚き、以来ダンボールなど身近な材料で道具をつくり、模擬体験を通して環境とエネルギーについて理解を深めていただく取り組みをしています。

1, これまでの取り組み

- ① 2009年7月から岩手県地球温暖化防止活動推進員として、岩手県地球温暖化防止活動推進センターからの講師派遣依頼に基づき、県内各地で「環境学習講座」講師をしています。
- ② 2014年1月環境カウンセラーに合格させていただき、その後岩手県環境カウンセラー協議会に加入し、環境カウンセラー研修等を通して、スキルの向上と最新知識習得に努めています。
- ③ 2019年11月地元滝沢市のたきざわ環境パートナー会議に加入し、わくわくエネルギー教室代表として、ビックルーフ滝沢で夏休み・冬休みのエネルギー教室を定期的で開催するなど地域の方々に環境への気づきの提案を行って

います。

- ④ 2016年4月～2018年4月岩手県環境審議会委員を、そして2023年9月からは滝沢市環境審議会委員を務めています。

2, 活動事例

- ① 小中高生に向けた出前講座
学校からの依頼をもとに、総合学習等の時間を使った出前授業で、ビック本や手づくりの道具を使って、温暖化のしくみをはじめ再生可能エネルギー、省エネについて模擬体験等を通して理解を深めていただいています。
また、手づくり模型を使い「電線にとまっているカラスはなぜ感電しないの？」や、台風などで「電柱から電線が切れて下がっていても絶対に触らない」など、楽しみながら模擬体験を通して防災教育も行っています。



小学校での環境学習会の様子

- ② 岩手県をはじめ各自治体での講演
県が行っているエコスタッフ養成セミナーをはじめ、自治体が行っている環境担当者会議や研修会等で、パワーポイントを使ったエコドライブについての説明や、手づくりの道具を使った温暖化のしくみ・身近にできる省エネ・再生可能エネルギーについて伝えています。



エコスタッフ養成セミナーの様子

- ③ イベントへの参加
岩手県主催の「環境祭り」をはじめ、地元滝沢市が毎年開催している「滝祭」等、主催者からの依頼で「楽しく・わくわく」をキーワードに活動しています。



環境祭り（手回し発電機でクリスマスツリーを点灯している様子）

また、私が加入している滝沢環境パートナー会議の、わくわくエネルギー教室代表として、毎年、冬休みと夏休みに、岩手県環境カウンセラー協議会とともに、環境学習とダンボールや、自

然に生えているすすきを使ったエコなあそびを企画し、子供から大人まで多くの来場者に楽しみながら環境とエネルギーについて理解を深めていただいています。



2023. 12. 27 盛岡タイムス（岩手県環境学習交流センターでの様子）

活動を通して、太陽光発電と省エネについて理解を深めていただくために行っている「世界最小のソーラーカーと懐中電灯（豆電球・LED電球）」を使った体験は、様々な行事で、大人から子供まで大好評です。



世界最小のソーラーカーを走らせている様子

3. 今後に向けて

様々な情報がすぐに取り出せる時代ですが、TVのニュースや新聞を見ない人が増え、環境について考える人が減少しているように感じています。

これからも、イベント等で足を止め、考えていただけるよう種まきを続けていきます。



団体紹介 会長 福留正治

1998年11月、7人の環境カウンセラーが集まって環境カウンセラー協会を設立（2004年NPO法人化）しました。小中高大学の環境学習を始め、県と連携して2泊3日の指導者養成研修を実施し、会員も60名近くと順調に発展しました。環境省のEA21立ち上げに協働参加して企業の環境経営を支援。省エネや再生可能エネルギー導入、荒廃した森林の再生等に大きな成果をあげました。その後、環境カウンセラーの合格率が低下して準会員が退会し高齢化が進行。事務処理の負担が大きいため残念ながらNPO法人を解散しました。しかし、環境保全活動の緊急重要度はますます高まっており、各主体からの要請に応えるために有志が再結集し任意団体として再スタートしました。地域住民との協働で環境保全活動に取り組んでいます。

1、これまでの取り組み

①普及啓発活動

岡山市・倉敷市・津山市等のイベントに出展、エコツアーや体験学習小学校でのホタル講座を行ってきました。

②委員派遣

岡山県・岡山市・高梁市津山市・美咲町等の各審議会委員長や委員として参加



水島沖での体験

③災害支援

東日本大震災時、現地作業や募金・ペレットストーブを贈り福島環境カウンセラー協会等が開催した復興イベントには倉敷市長のメッセージを伝達しました。西日本豪雨災害では、避難所スタッフや現地作業に参加・福島環境カウンセラー協会から大量の支援品が届きました。



環境大臣賞（事業者部門）

協働による環境保全活動

環境カウンセラーズおかやま

表彰理由

岡山県北部で雑草が繁る中学校通学路斜面に花壇を建設し、付近の笹竹林に花木を植栽して公園化を図るなど環境改善に尽力。岡山県県南、水島コンビナート地帯の環境改善活動では、環境経営の指導や食品ロス削減、都市近郊に進出して来たイノシシ等の防除に住民組織を立ち上げて取り組んだほかホタルの復活活動に取り組むなど市民・団体・企業と連携して地域環境課題に取り組んでいる。

④フードバンク活動

2015年ころから環境カウンセラー協会の賛助会員が中心となって取組み、年間約160tを扱っていましたが、逝去したため会員の環境カウンセラーが新方式のフードバンクを新たに立ち上げています。

⑤その他の地域活動

協会元会長難波貞敏が倉敷市で道路に花植えやホタルの増殖および地元史編さんに取り組ましました。

2、活動事例

(1)県北津山市での取組み

①中学校通学路の環境整備「久米中美化の会」（藤本きわめ代表）を立ち上げ通学路約300mに花を植栽。正門横斜面に雑草が茂るため花壇を建設しました。



②花木公園

地域住民と協力し、中学校近くの笹林を伐採して花木を植栽・遊歩道を設けて花木公園化を図っています。



また、通学路沿いには菜の花を栽培しています。

花を愛し、四季を感じ、自然を敬う心が生まれ、持続可能な社会の構築に貢献しています。

(2)水島コンビナート工業地帯での取組み

①都市近郊での有害鳥獣被害対策

2011年ころから水島工業地帯に残る畑や住宅街への猪等の侵入被害が続発したため、環境カウンセラー、猟友会員と地域住民でボランティア団体「つらレンジャー」(福留正治代表)を立ち上げて対策に取組みました。有害鳥獣対策システムとしては、被害者が市町村担当課に被害届等を提出し、駆除班(猟友会)に捕獲依頼する体制となっていますが、猪が住宅内の畑にまで進出して被害が拡大してきたので、捕獲だけでは防ぎ事出来ない、その場所の特性に応じて住民が主体的に活動する必要に迫られました。猪の習性や出会ったときの対処などを知ってもらうため、各町内会などに出席講座を開催すると共に、安価で、取り扱い容易で、応用がきいて、安全な被害防止装置の開発に当たりました。

また、駆除班を支援するとともにフィールドワークを開催し、若手の狩猟者誕生、育成にも努めました。

つらレン方式独自開発イノシシ侵入防護柵



つらレン独自改良のカラス捕獲檻



捕獲した猪は、ジビエ料理として農協祭りなどに出店しPR普及に勤めました。



②工業地帯まち中にホテル復活

水島コンビナート工業地帯では、公害問題以降、官民あげて環境改善に取り組んできました。環境カウンセラーも廃棄物問題やEA21など企業の環境経営の指導等に取り組んで来ましたが、活動の集大成として街なかのホテル復活を図りました。ホテル復活を目の当たりにすることで市民の環境改善意識を向上させるため、「八間川にホテルを飛ばそうプロジェクト」(福留代表)を香川大学院生と共に立ち上げました。八間川遺跡橋のプロジェクトマッピングでは約500人の参加があり、それに励まされ三方コンクリートの八間川にホテル幼虫を放流したのですが、川底が不具合で幼虫が育たず失敗しました。

住民意識向上のためにイベントを開催しました。

「ホテルフォーラムとホテルを唄う」



次に、水島中心部の市営施設「水島愛あいサロン」のビオトープに幼虫を放流する許可を頂きました。もちろんホテルは水島広江地区内、高梁川流域で採取するなど、遺伝子攪乱に注意して取組み、ついにホテル飛翔に成功しました。かつて公害のまち、汚い街と言われたところにホテルが飛翔するまで環境が回復したことを証明出来ました。



3. 今後にむけて

環境カウンセラー、会員の減少のため組織単独での事業実施は困難となりましたが、任意団体として一般市民・他活動団体・行政を巻き込んだプロジェクト方式による有効な取組みを行っていく所存です。活動を通じて環境カウンセラー候補の発掘や会員の増員に取組みたいと考えています。

脱炭素社会貢献賞 (市民部門)

” Think globally, Act Locally” をモットーに「人の意識改革・人づくり」の体験活動教育



松浦 ゆかり

表彰理由：

児童・生徒や市民を対象に幅広い分野で普及啓発活動を展開している。特に、省エネ行動として20年以上前から、一斉に消灯するライトダウン運動を提唱し、八代市と共催するなど、活動を熊本県下全域に波及させた。また、高校生チーム「エコユースやつしろ」を立ち上げてプラスチックごみ回収や食品ロス削減などに尽力している。

自己紹介

1958年生まれ。熊本県八代市在住。
2001年「次世代のためにがんばろ会」を発足、代表となり23年間、団体設立時より企画運営に関わっている。
*2005年～現在：地球温暖化防止推進員
*2010年環境カウンセラー市民部門取得
*受賞歴：公益法人ソロプチミスト日本財団社会ボランティア賞 受賞(平成25年)
*委嘱：熊本県環境審議会委員、熊本ユネスコ協会理事ほか

これまでの取組み

- ① 牡蠣の殻を使用した「かき殻祭り」
牡蠣の殻を使った河川浄化活動。市内の高校生 800人参加する大イベントとなり、これを機に様々な活動に高校生が参加するようになる。
*2002～17年まで。
- ② 派遣講師として教育関係4R授業推進
河川浄化活動からごみ問題に関心を持ち、八代市循環社会推進課協働で資源物22分別、4R や食品ロスの授業を実施。現在は市内の幼稚園から高校まで年間約30件の依頼がある。さらに、授業を受けた高校生が児童への出前授業を行うシステムを作り、高校生が自ら学び伝える事を目指している。*2003年から現在

高校生が小学生へ資源ごみ22分別授業の実施



③ 地球温暖化防止活動推進員としての活動

- *県・市依頼で温暖化防止の出前授業実施
- *県・市主催講演会で温暖化防止啓発講演講師を務める
- *熊本温暖化防止対策センター理事・小学生用温暖化防止教材エコノート作成委員
- *八代市主催：緑のカーテン審査員
- *八代市脱炭素化推委員として会議参加

熊本県地球温暖化防止推進員として五木中学校で授業



④ リユース食器無料貸し出し

資源循環型社会への啓発を勧めるために、リユース食器無料貸し出しを企画、運営し、地元のPTA イベント、夏祭りで利用件数が増加。

～無料リユース食器貸出し内容～

- *大皿 500 枚
- *小椀・中椀各 500 個
- *お箸 1000 却
- *スプーン(大・小)各 300 本
- *どんぶり 800 個など



無料リユース食器チラシ

リユース食器 お貸し致します!

1 箸の貸し出し 2 アルミ食器の貸し出し

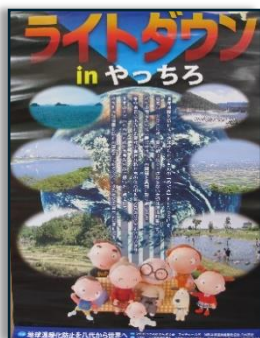
3 22分別食器の貸し出し 4 箸の消毒機

あなた、いくつかの食器を何枚使いましたか?

次世代のためにがんばろ会
連絡先： 0965-32-5081

⑤ 市民一斉行動「ライトダウンin八代」
八代産業廃棄物協会と共同で省エネを啓発する「ライトダウンinやつしろ」を企画・実施。八代市と共催できるようになり、さらに全国ストップ温暖化防止大賞で特別賞を受賞後は、熊本県全体の取り組みとなっている。

ライトダウンinやつしろポスター



ストップ温暖化 特別賞受賞



⑥ 「八代海河川・浜辺の大そうじ大会」
2002年に開始。700人を超える高校生等が参加する八代の風物詩となっている。ごみ拾いだけでなく、不法投棄ごみの視察会も行い、市民への啓発をしている。

毎年市内の高校生が浜辺の大そうじ大会に参加



⑦ 生ごみ処理たい肥化「もったいなか箱」
など温暖化防止キャラバン隊運営
2017年に市民アンケートを採り、ごみ問題を改善する活動を企画。①生ごみ減量「もったいなか箱」の推奨、②ごみ減量新聞作成、③資源物22分別の広報DVD作成、④循環型社会に向けた講座・講演会、④前記教材作成等。

八代市内で約250戸が使用する「もったいなか箱」



⑧2021年に、青少年へ環境活動を引継ぐための組織「エコユースやつしろ」を発足させ、企画・運営。メンバーの高校生たちが、八代の自然環境・歴史や文化に関する幅広い知識を自ら学び、環境保全の意識を高め、干潟に関する幅広い知識を学び、環境保全や地域理解の意識を高め、故郷八代の魅力を世界に発信できる人材となり活躍していけるよう育成実施。

A. 「地域の成立ちを学ぶ体験学習」

専門家を招聘し、高校生メンバーが、現地で、五感を通じて地域の歴史・成り立ちを学ぶ体験を年間約15回実施(毎年約500人参加)。

B. 「発表の場数を踏み、情報発信」

学んだことを地元ラジオや国際的なイベント等様々な場所で発表させることを通じて、五感で感じたことを自らの言葉で伝えること、質疑に対応できるコミュニケーション能力を高めることを重視した指導を行っている。

C. 交流し学び合う「高校生サミット」開催

2023年からは複数の県の高校生を集めた交流イベントとして展開している。多様な考えの人と意見交換する機会を設けることで、学びにより自分の考えを深めそれを発表する能力だけでなく、多様な視点を理解し互いに高め合う共感力、高度なコミュニケーション能力総合的に兼ね備えた人材育成を行っている。

2023年は脱炭素をテーマとして75名がWSに参加



今後の展望

私が成果を出してきた「人と人が繋がる活動」の仕組みを、次世代を担う青少年や他の活動団体の活動でも引き継いで貰えるよう、地域の関係者に関わってもらい、活動を広げる秘訣等を伝えていきたい。そのため情報発信や青少年育成にさらに注力していきたい。

脱炭素社会貢献賞（事業部門）

脱炭素社会に対応する事業者への助言

横山 宏



表彰理由：重電気メーカー勤務時から、企業の環境保全活動について助言・指導を行うとともに、国際標準化機構のエキスパートとしてISO14031の作成に関与。国際電気標準会議ワーキンググループ議長として超小型燃料電池規格作成に寄与した。また、中小企業の太陽光発電や蓄電池設備導入の経営判断への助言を行っている。

自己紹介 1947年生まれ。

1971年日立製作所入社、日立研究所ニューヨーク駐在員、エネルギー制御・電池研究室長、地球環境推進センター長、研究開発本部主管技師長、産業環境管理協会理事、日本環境倶楽部理事を歴任、現在株式会社オー・エスコンサルティングアソシエイツ代表取締役

(工学博士)

表彰歴

- ・METI 産業技術環境局長賞（2007）
「国際標準化活動への貢献」
- ・JEMA 電機工業技術功労者表彰(2008)
「超小型燃料電池の性能試験方法に関する IEC 国際規格作成と発行」
- ・国際電気標準会議(IEC)1906 表彰(2009)
「国際会議のコンビナーとして長年にわたる貢献」

1. 活動紹介

【太陽光発電設備の導入における事業者の経営判断への助言①】

東日本地区で工場跡地の活用を考えている電気事業者に対して、年間電力消費量の推移をレビューし、太陽光発電設備を導入して自己消費するシステムの導入・運営について経営判断資料を作成し、それに基づき

検討した経済的指標は次の通り。

- ・借地/自社分散所有地のコスト
- ・発電量、自己消費電力、売電価格
- ・敷地面積、セル寸法、パネル枚数
- ・発電 kW 当たりの土地面積
- ・他所の事例・実績
- ・電力の託送計画と目標未達のペナルティ

3. 通 算 値		
敷地面積	8,174.78 m ²	8,174.78 m ²
太陽光発電設備面積	3,775 m ²	3,800 m ²
セル寸法	900 mm x 1,600 mm	900 mm x 1,600 mm
パネル枚数	3,800 枚	3,800 枚
発電容量	800 kW	816 kW
1kW 当たりの面積	7.85 m ² /kW	7.85 m ² /kW

【太陽光発電設備の導入における事業者の経営判断への助言②】

遊休土地の活用を考えている事業者に対して、経営判断資料を作成して助言を実施した。

検討した経済的指標は次の通り。

- ・設備償却年数と売電契約年数

循環型社会貢献賞（市民部門）

中村 優理子



表彰理由：こどもエコクラブなど児童・生徒・学生の環境教育を進め、愛媛県環境カウンセラー協議会員として公民館講座・企業等の研修講師を務めて食品ロス・プラスチックごみ削減活動に取り組んだ。松山市職員としても環境カウンセラーの地域版「松山市エコリーダー」の活性化に尽力したほか、他の自治体が初めて取り組む環境関連の問い合わせに対するなど環境保全施策推進に努力している。

自己紹介

大学時代に松山市が主催する環境講座を受講し最年少で「松山市エコリーダー（環境学習講師）」登録。学校等で自然観察やリサイクル工作、環境クイズなど楽しく学べる体験型環境学習を企画運営する一方、行政経験(市環境部で家庭系一般廃棄物や環境教育啓発を担当)を活かし、食品ロス削減や海洋プラスチック問題、SDGs等について様々な方面で講師を務める。愛媛県環境マイスター、愛媛県海岸漂着物対策活動推進員、松山市エコリーダー。まつやまこどもエコクラブ主宰。3児の母。声優、書道家、合唱団員としても活動している。



これまでの取り組み

私は、一人一人が環境保全意識を高められるよう、それぞれの年代・立場に応じた環境教育に取り組んでいます。

特に、若い世代に対しては、正しい知識と合わせて、環境問題について自分自身で考える力を身に付けられるよう、

地元密着型の体験型環境学習の機会を提供しています。

●学校等への出張講座



これまでに20年以上にわたり、子供向け（小学生～大学生）には、廃棄物問題を中心に40回以上の講演を行ってきました。今年度は、松山市教育委員会の地域モデル事業として、地元小学校5年生の総合学習（2・3学期の約60コマ分）に関わっています。授業の「目標」や「進め方」を担当教諭と相談しながら組み立て、子どもたちの理解の程度など、授業全般の進捗状況を確認しながら、時には講師として教壇に立っています。

このほかにも、児童クラブ等で、食品ロスや海洋プラスチック問題の講話をするな

ど、環境問題の様々な面を伝えるように努めています。



●こどもエコクラブ運営

「まつやまこどもエコクラブ」に家族で登録し活動しています。海ごみ拾いイベントに複数回参加している実績から、日本財団主催「スポGOMI ワールドカップ」では選手宣誓を任せられ、松山市の公式ホームページでは「松山市唯一のこどもエコクラブ」として紹介されました（令和4年度現在）。また、家族だけではなく、地域の子どもたちも対象に、市内の環境カウンセラーを招いて自然観察会を開催しました。



●企業等への研修

普段、環境について学ぶ機会が少ない階層である大人（社会人）に向けて、様々なアプローチを行い、環境教育に取り組んでいます。

例えば、民間企業に勤める社会人向けには、企業研修の場を活用して、各企業の方向性を理解した上で、従業員一人ひとりの意識づけができるような「ワークショップ

プ」や「体験活動プログラム」を提供しました。

また、他市からの求めに応じて、環境カウンセラーの資格を有する公務員として、各市が初めて取り組もうとする環境関連事業へのアドバイスを行うなど、環境行政の現状も把握した取り組みに努めています。



●マスメディア

テレビや新聞では海洋プラスチック問題やエシカル消費等身近な環境問題について、伝えています。また読み聞かせ会で環境絵本を読んだり、4コマ漫画で地元の環境問題について伝えたりしています。



今後について

仕事と家庭を両立しながら、環境教育活動が続ける中で、様々な企業や団体、有識者の方々と繋がり、多くの講演等を始めた依頼をいただくことになりました。

「知識を常に最新にすること」や「受講者側にレベルを合わせること」を意識して、今後も活動を続けていきたいと思ひます。

環境型社会貢献賞（事業者部門）

中上 冨之



表彰理由：外食店舗での「食べ残し持ち帰り運動」を発展させるため、普及コンソーシアムの設立や食品ロス削減のイベントを開催し、外食チェーンやホテル、自治体等に働きかけて食品ロス削減に取り組み活動を定着させた。
また、「アースアワー」イベント参加や大学・自治体セミナーの講師を務め、森づくり等を提唱した。環境カウンセラー会ひょうご会員としての活動など、全国で環境保全活動の発信に努力している。

自己紹介

1994年株式会社セブン&アイ・フードシステムズ入社。レストラン「デニーズ」ディストリクトマネジャー、新業態開発総括マネジャーを経て2014年よりCSR推進業務に従事。サステナビリティ推進総括マネジャー・環境部会長。2016年環境プランナー、2018年ISO14001EMS審査員補、同年環境マスター、2022年環境カウンセラー。同年、外食時食べ残し持ち帰りによる食品ロス削減を進めるアライアンス「mottECO 普及コンソーシアム」を設立。産官学連携でその普及拡大、定着に取り組んでいる。

これまでの取り組み

企業の環境推進担当者としての勉強のスタートは2014年の環境社会検定（エコ検定）受験という基礎の基礎からでした。基礎とは言え、ほぼ営業畑の経験しかなかった私には、京都議定書もGHGも廃掃法も難解な外国語のように思えたものです。当時会社が講師として外部から招いたのが「環境プランナー」という方々でした。

翌年から会社の方針で、「全社員エコ検定合格」が掲げられ、その推進役となることをきっかけに、単に先に合格した人、ではなく内部講師として正しい知識や情報を身に付ける必要を感じ、2年の環境実務経験という条件を満たした後、「環境プラン

ナー」の資格を取得しました。並行してISO14001の認証取得とその維持のために「EMS 審査員補」、スコープ3算定やSDGsに即した経営推進のために「環境マスター」取得と、在籍する企業の環境経営推進には自身の力量向上が必須との思いで勉強を重ねてきました。

環境カウンセラーを「てこ」に

私は環境カウンセラーとして、取り組みの根幹をSDGs17「パートナーシップ」に置いています。



私が仕事をしている外食産業は、食品廃棄物の削減、物流やエネルギーの効率化、B to C 事業としての環境啓発の推進など様々な社会的責任を負っています。外食産業の市場規模は二十数兆円と大きく、日本の基幹産業のひとつですが、同規模の他産業と比べて寡占化は進んでいません。これは一企業の取り組みだけでは、社会課題解決は難しいということを意味します。私が活動の基本にSDGs17のパートナーシップを据えたのはこうした背景によります。

環境施策について、企業の枠を超えて連携していくことで、小さな力を社会課題解決に繋げていく、そのために環境カウンセラーの肩書を言わば「てこ」として使っていきたいと考え、登録取得に至りました。

様々な連携①

連携活動のフックとして、外食業界に対し、「EARTH HOUR (アースアワー)」への合同参加を企画提案、実行し、参加各社の社員とお客様への環境啓発に繋がる取り組みとしました。これは、毎年3月最終土曜日の20:30からの60分間消灯し、みんなで環境について考える、というWWF主催の世界的環境啓発イベントです。



デニーズ大泉店 看板消灯前(左) 消灯後(右)

直近、2023年3月のEarthHourでは、外食企業10社25ブランド、1,363もの店舗、事業所の参加をいただきました。循環型社会の実現には、国民ひとり一人の行動変化が欠かせません。そのため、直接お客様と接する外食事業に携わる環境カウンセラーとして、こうした啓発活動は大変重要な取り組みであると位置づけています。

様々な連携②

次に本業に即した食品ロス削減の取り組みとして、企業の枠を超えた連携で挑戦したのが、飲食事業者による食べ残し持ち帰り運動の実践です。これは「外食時の食べ残しは自己責任で持ち帰りごみにしない」という取り組みで、これを環境省命名の「mottECO (モッテコ)」という運動として普及させ、社会習慣にしていくことで食

品廃棄物を削減しようと考えました。

私自身は、2022年に環境カウンセラー登録を取得しましたが、mottECO (モッテコ) 事業はその前から企画していたことであり、草の根運動で飲食・ホテル事業者に連携を呼びかけていました。ただこれは、目先の利益に繋がる取り組みではなく、また食品衛生上の懸念から、参加を辞退されるケースも少なくありませんでした。

しかし、登録取得以降、環境カウンセラーとして、企業を超えたアライアンスの必要性を説くとそこに説得力が生まれ、参加団体が拡大。企業だけでなく自治体の参加も得て「mottECO 普及コンソーシアム」設立に至りました。

また設立に留まらず、国のモデル事業への申請、事務局の運営、啓発イベントの開催といった活動も「個の利益でなく、環境カウンセラーとしての志や自覚」によるものとして受け入れてもらい、少なくとも連携にかかわった皆さまには環境カウンセラーの存在意義として認識いただいたのではないかと自負しています。



mottECO イベントでのパネルディスカッション
今後に向けて

これまでの取り組みを基礎として、今後例えば企業の垣根を超えた廃棄物の共同回収など、より困難な社会課題の解決に向けて、築いてきた連携の絆を大切に、活かしていきたいと考えています。

自然共生社会貢献賞（市民部門）

自然の恵みを生かし、楽しみながら取り組む自然保護活動
片山愛司



表彰理由：「今川子ども自然クラブ」を立ち上げ、今川や里山の自然観察などに取り組んだほか、教職員として赴任校で学習プログラムを作成し、ビオトープづくりなどの自然学習など環境教育を進めている。また、湖西青少年指導者養成研修でリーダーを育成、静岡県や湖西市等と連携して浜名湖周辺での自然保護活動に取り組んでいる。

自己紹介 「先人の知恵から学び、取り組みながら、持続・発展する里山づくり」をテーマにしながら、地域の自然保護保全活動に取り組み始めて、32年が経ちました。その活動の中で、「今川子ども自然クラブ」を立ち上げてから16年が経ち、子どもたちが主体的に自然保護活動に取り組めるようにサポーターとして活動してきました。また、幼稚園・小学校・中学校・高校での自然保護活動に関する講話や環境学習にもかかわりながら、持続可能な自然保護活動となっていくように取り組んできました。

1, これまでの取り組み

これまで自然保護活動を進めていく上で、地域、学校、行政、企業、市民団体などかかわりながら、その取り組みが広く進められるように活動してきました。そして、これから自然保護活動を推進していく中学生、高校生を中心としたリーダー養成にも力を入れ、多くのリーダー認定者を育成してきました。

① 近年、里山に人の手が入らなくなってきたために荒廃し始めている現状をみて、2007年4月に、地域に残された貴重な自然環境を保護することを目的に小学生から高校生を対象にした「今川子ども自然クラブ」を発足させ、年間7回の活動を実施してきました。先人の営みから持続可能な取り組みを学ぶために、再生した棚田での米づくりを中心とした活動に取り組んできました。棚田での農薬を使わない米づくりでは、隣接する森林からのきれいな水と落ち葉の堆肥を利用して取り組んできました。

が棚田とかかわり合っていることを学んでもらうことができました。棚田が生態系に大きくかかわっていることによって、豊かな自然が残されていることに気づき、先人が米づくりを通して、持続可能な営みをしていたことを体験することもできました。この取り組みが認められ、これまでに環境大臣賞を2回受賞しています。



② 1993年から静岡県青少年指導者養成事業「湖西青少年指導者養成研修会（初級・中級）」を企画し、取り組んできました。今までに341人の修了者を数え、修了生の中に

は「今川子ども自然クラブ」のサポーターになったり、将来自然と関わっていきたいという希望をもって大学に進学したりする子どももいました。③これからの学校での環境教育では、子どもたちが「社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む」ことができるように、社会に開かれた学習プログラムを作

成し、実現していくことが求められています。その実現に向けて、子どもたちの主体的な学習活動や発想（感性）を高めていくために、里山の営みを体験しながら、自然と共存し、持続可能な営みをしていることに気づく総合的な学習の時間の支援に取り組みました。その実践の場として、学校ビオトープや学校近くを流れる川を活動の場として支援を続けてきました。学校ビオトープでは、6年生が「もっと身近なビオトープにしよう」をテーマに、ビオトープに



生息する生き物を調査し、その保護について一人一人がテーマを決めて取り組んでいきました。そのサポーターとしてかわりながら、学校ビオトープの保全を市民団体とPTAの協力を得ながら進めてきました。2001年に完成した660㎡の学校ビオトープは、全国学校園庭ビオトープコンクールで2005年に優秀賞、2015年から現在まで連続して5回入賞し、子どもたちの学習に大変有意義な場となっています。④地域や行政、市民団体、企業と協働しながら活動する環境カウンセラーとして、これまで様々な活動に取り組んできました。◇2011年から2023年までの11年間かわってきた「新所アジサイまつり」では、地域に生息している生き物を主催者

の協力で採集し、生き物の説明と展示をしました。

◇講演会として、幼稚園のPTA教育講演



会で「子どもが自然とかかわるよさ」と題して講演しました。また、県立高校の2年生には、「自然愛護活動を通じた社会貢献」と題して講演を行いました。

これらの講演会では、自然環境を活用した学習が子どもたちの成長や生活にはとても必要であり、大変有意義な取り組みとなっていることを理解していただきました。

2、今後に向けて

32年間自然保護保全活動に取り組んできましたが、まだまだ十分な成果があがっているとはいえない状況です。SDGsやネイチャーポジティブ（自然再興）にみられるように、ますます自然保護活動は重要となっています。自然と人の営みが切り離されているかのような現代社会ですが、実際には自然と人が密接にかかわり合っていることは周知のとおりです。そのためには、自然と人とかかわり合える場合をもっと提供し、自然の楽しさやおもしろさ、不思議さを体験していただき、人と自然はつながっていることを実感できるようにするとともに、自然と共生していることを理解できるようにしたいと思います。



自己紹介

環境カウンセラー千葉県協議会(EC千葉)は、千葉県での環境保全の向上を目的にした団体です。環境に関する専門知識や豊富な経験を有し、環境省に登録された環境カウンセラーと環境活動に賛同する千葉県在住者で構成された68名の会員が一体となって、千葉県内の自治体や学校等と協働してフィールドワークを中心に活動しています。1998年2月に任意団体「環境カウンセラー千葉県協議会」として設立、2003年7月にNPO法人化し、「特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会」として現在に至っています。2014年には、環境省・文部科学省から「環境教育等支援団体」の指定を受けています。このたび設立四半世紀の25周年を迎え、これまでの25年間の足跡とこれからの展望をまとめ記念誌「25年のあゆみ」としてこの4月に発行の予定です。[SDGsを踏まえた取組み例]

【これまでの取組み】

① 「大多喜町環境教育プログラム わくわく探検隊～自然となかよし～」の開催

過疎化が深刻な南房総地区は、豊かな自然と起伏に富んだ地形を利用した水力発電が10年前から復活していることをここに住む子どもたち(小学校高学年)に認識してもらうこと。自然を愛し故郷に関心をもってもらうための体験の機会を提供しているプロジェクトで、途中コロナ禍での中断もあったが5回を数えています。毎年、夏休みの初めに大多喜町環境教育プログラムを開催すべく、私どもEC千葉が企画し、大多喜町教育委員会の後援を得て、更に大多喜町環境水道課ほかの関係課、発電設備管理される(株)関電工やNPO法人サポート技術士センター等の協力、子どもたちの参加募集(30名)には近隣市町教育委員会と各小学校にも呼びかけ応援をいただいています。

1) 水辺の生きものしらべ

養老川最上流の水辺に入り、日頃は見ない生きものを採集しその生態を知り生きものとの共生が大切なことを知る。

2) 面白峡小水力発電所の見学南房総の豊かな水の利用について先人の先見の明を知り、再生可能エネルギーの重要性を認識する。参加した子どもたちの保護者から「たった一日の体験で素晴らし

【自然共生社会貢献賞】(事業者部門)

特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県会

表彰理由

大多喜町と連携して「わくわく探検隊」を開催し、水辺の学習や水力発電所見学を行うほか、浄化槽講習会や「水環境体験教室」で南房総の豊かな自然と水環境の保全活動推進に取り組んでいる。また、学校や自治体主催研修会等に講師を派遣するとともに、千葉県内の企業を対象とした環境セミナーを開催してSDGsの取組みを進めているの感想をいただき、自分たちも体験したいとの要望もあって、第4回からは保護者の参加も受け入れ好評でした。



〔水力発電所の導管前で記念撮影〕

② 水環境を守る出前講習会「浄化槽啓発講習会」への普及・啓発活動

2009年7月千葉県との協働事業に採択され「浄化槽使用者に対する水質保全に関する啓発教育の実施」の講習会から始めました。これは、浄化槽を設置した方を対象とした講習会で、下水道未普及地域などにおける河川、湖沼の水質環境を改善するためには浄化槽放流水の水質レベル向上が必須であり、浄化槽の維持管理に関する啓発教育をおこなうことが目的でした。



〔講習会の様子〕

〔実習風景〕

一方、小学校の高学年の体験教室では、私たちにできることは何かを考え、そして行動に移す。近年はSDGsの話も織りまぜて、水環境の課題や対策について一緒に考える体験教室としました。出前講習会「浄化槽啓発講習会」は、これまで県内各地で開催し延べ2,033名が参加。参加者と一緒におこなう実習を取り入れた参加型講習会で好評です。水環境体験教室も教育委員会や小中学校と連携して実施し高い評価を頂いています。

③ 環境省「家庭エコ診断制度」に基づいた「うちエコ診断」の実施

家庭における地球温暖化防止対策の提案と省エネ診断を行う活動で、2016年に環境省の認定を受け、現在も活動を継続中です。2016年以降、会員の地元自治体である千葉市、白井市、野田市、八千代市、木更津市、君津市、浦安市、船橋市の協力のもと実施できています。（2018年以降、環境省からの補助金打ち切りにより、その後は当会会員の地元自治体からの支援をいただき運営されています。「うちエコ診断」のこれまでの集計結果を下記に示します。

・実施件数 167 件：CO2 削減量は合計 132,521kg-CO2/年（～2022年11月末）です。

・千葉県全体世帯別平均比較でのCO2排出削減（2016年～2022年11月末日）効果は788kg-CO2/年（回収世帯数152件）17.8%です。・受診された方々は光熱燃料費の削減メリットだけでなく、地球温暖化防止活動への意識が向上して[うちエコ診断（エコメッセ）] いました。2016年以降、うちエコ実施機関EC千葉ネットに登録されたうちエコ診断士は、EC千葉会員の7名です。受診者からは、意識の変化や省エネに役立つなどの点で、いずれも好評を得ています



〔うちエコ診断(エコメッセ)〕

④ 県内企業を対象にした「企業環境セミナー」の開催

「企業環境セミナー」の企画は、私どもEC千葉が行い、千葉県をはじめ千葉県内の（主に中小）企業関連を主とする12団体の後援を得て、千葉商工会議所との共催で26年の実績があります。第5回以降は千葉商工会議所を会場として開催、セミナーの構成は、外部の専門家による基調講演と県内でISOやSDGsに取り組む企業2社の事例紹介を紹介しています。セミナーへの参加者募集は、後援団体を通じても協力をお願いしてきました。最近ではEMSとSDGsをつなぐセミナーとしておりSDGsにどう取り組むかのヒントを求める企業もあって、千葉県内企業のEMSの普及とSDGs登録制度の普及への一助となっています。今後も社会のニーズを先取りしたセミナーの企画を目指す予定です。

⑤ 学校関係や自治体の企画する「講演・講座・研修」へ環境保全活動の普及・啓発活動

活動の連携は、環境省、千葉県、県環境財団、市町村、環境団体、学校など様々な団体にわたりま

す。2004年12月佐原市「子供と一緒に環境学習の会」（環境省関東地区環境対策調査官事務所主催）への講師派遣から現在に至るまで、千葉県内の各学校・各地方自治体等へ講師を派遣しており当会会員の講師派遣活動として長年の実績があります。近年の講演等の依頼件数と受講者数は、直近の5年間でも講師派遣件数：41件、受講者数は、1353名以上に及びます。傾向として、SDGsの視点を取り入れた内容が、参加者の環境・経済・社会に対する意識向上に繋がっていることを実感しています。なお、2014年には「ちば環境学習応援団」に登録されました。



〔市役所セミナー〕



〔親子環境講座〕
〔苦心した点・改善点〕



〔公民館講座〕

3年余りの長期行動自粛の影響は大きく、活動の休止や対面の会議が殆ど出来ずオンライン会議を余儀なくされましたが、高齢者の行動変容とオンライン（ZOOM会議）活動の不慣れによる会員相互のコミュニケーション不足が常態化し、活動自体にも支障をきたしました。さらに、若手社員に対しても十分な意思疎通ができず、コミュニケーションギャップも顕著になってきたように感じます。会員の高齢化が進んでいるにもかかわらず、若手カウンセラーの入会がなかなか出来ずにいます。今後は、会員の増員強化と後継者の育成が大きな課題です。

〔今後に向けて〕

環境問題は巾が広いし、専門的にも多岐に渡って活動できるチャンスがあるので、私たち環境カウンセラーにとって、グローバル化した大きな困難な課題もあれば、身近にある多くの取組み可能な課題もあります。会員一人ひとりが自分のこととして捉え、一人でも多くの人々に関心を持っていただけるような啓発活動や具体的な行動を通して社会のニーズに応える環境保全活動を行い、感謝される団体を目指していきます。

地域特別賞貢献【市民部門】
水藻 英子



表彰理由

大阪府と連携して「地方創生 SDGs」にファシリテーターとして取り組み、食品ロス削減・ごみ減量や温暖化対策に尽力している。特に「障がいがあっても社会貢献」を掲げ、知的障がい者スタッフと高齢者、障害者の環境課題に対応。環境イベントを37回開催している。大阪環境カウンセラー協会の事務局長としても運営を担っている。

自己紹介

私は、1992年より、一般企業のISO14001認証取得事務局として活動する一方、2人の息子のPTA活動に参画し、市内を流れる二級河川や当時は、大阪府内唯一の海水浴場と言われた海辺のカンカンピックアップ運動や市内の公園の花壇づくりに参加させていただいていました。その体験をもとに2002年環境カウンセラー市民部門にノミネートし、登録されました。企業を退職したのち、保育所の臨時保育士となり、子どもたちと一緒にどんぐり集めなど田舎らしい遊びを取り入れてきました。

これまでの取り組み

私は、2002年に環境カウンセラー市民部門に登録された最初の活動は、2003年より、大阪市環境局が募集した市民ボランティアによる「市民環境調査隊」の運営に関わり、同市の環境施策や環境保全の取り組みを市民の目で監査する取り組みでした。参加された市民ボランティアの熱量に圧倒される5年間を経て2008年、大阪環境カウンセラー協会事務局員としてお手伝いを開始しました。2011年度より、「高齢者・障がい者環境出前授業」を開始し、大阪府環境保全活動など補助金、「連合・愛のキャンパ」などの助成金を活用させていただきながら今日に至っています。2019年には、この取り組みにおいて大阪環境カウンセラー協会が、「第1回環境カウンセラー環境大臣表彰事業者部門」および「令和元年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰環境教育部門」を受賞しました。

取り組み内容

高齢者・知的障がい者の方への対応には、環境教育における経験とともに福祉分野の理解も必要です。双方の経験が豊富な

スタッフが、多く在籍している大阪環境ネットの会員の協力が不可欠です。経験によって裏付けされた地球温暖化防止に関する知識や知見をベースとした座学とテーマに応じた実験や工作・ゲーム、人形劇などのワークショップの2本立てを基本とするプログラムでわかりやすく解説しています。SDGsの視点として、障がい者や高齢者が情報弱者であり、最新の環境問題に触れる機会が少ないことに課題を見出しました。

環境教育は世界規模で取り組む課題として重視されている一方で、高齢者・知的障がい者のための環境教育は一般の環境教育プログラムをそのまま適用することが難しいことから対応が遅れています。福祉分野に特化した環境教育の普及が私の本分だと思っています。環境問題は、多岐にわたることから、多方面から授業を展開することで毎年、声掛けしていただけるようになりました。また、口コミでそのニーズが広まりつつあります。

活動事例

【食品ロス問題に関する多様な啓発活動】

大阪府、一般社団法人食品ロス・リボンセンターと連携し、各団体が作成したカードゲームなどの教材ツールを活用して、小学校の出前授業や高齢者・障がい者出前授業で、受講者にあわせて分かりやすく親しみやすい環境教育を行っています。

活動にあたっては、大阪環境カウンセラー協会および大阪環境ネットの会員と、大阪府の「もったいないやん活動隊」に登録されているメンバー4名と共に、補助スタッフを育成することにも力を入れており、現在は合計11人のスタッフで活動しています。

【知的障がい者のスタッフ起用】

「障がいがあっても社会貢献」をコンセプトとして、知的障がい者によるスタッフ活動を推進しています。この取り組みに賛同する2つの障がい者支援団体から8人の障がい者がスタッフとして大阪環境ネットに所属し、そのガイドヘルパーと共に活動しています。<知的障がい者によるスタッフ活動の概要>○障がい者とそのガイドヘルパーには「交通費+昼食代」の謝金を支払います。障がい者は、自分の働きが対価に代わることを認識することができ、自分の頑張りにも充実感を味わうことができます。

○2016年から2023年の7年間において、37回のブースを展開してきました。

○原子力発電環境整備機構（NUMO）の『地層処分事業の理解に向けた自主企画支援事業』に応募・採択され、イベント参加に伴う費用の一部やベントナイト実験キット、説明用冊子などの支援をいただき、多くのスタッフと共に電気の作り方や地層処分事業についての理解促進活動を実施いたしました。



【プラスチックスマートな生活を目指して】

2016年から、玉ねぎ染めのエコバック作りをワークショップに加え、地域社会の一員として、ごみの減量、資源の再利用などの取り組みに協力しようということで、小学校、高齢者、障がい者にごみの分別の目的など丁寧に指導してきました。

長年の活動の中で、一番回数を多く実施させていただき、すでに9年目の活動につながり、受講生は2,000名を超えました。



聴覚障がい者施設では手話で！

【災害に備えて LED ランプシェード作り】

気候変動の適応策の一つとして、ランプシェードを製作し、いつもの場所にLED

ランプを設置しておくことで、停電に備えるという授業を行い、2022年～2023年の1年半の活動において627名の方に受講いただきました。コロナ禍においては、積極的に訪問支援することが叶わなかった地域の包括支援センターの依頼や、孤立・孤独対策の取り組みを広く実行されているボランティアの方々の水平展開として、「顔の見える関係づくり」に役立てていただける人と人をつなぐネットワーク作りに協力させていただきました。



今後に向けて

ネット社会の進歩とともに錯綜する情報を選び取り、正しい科学的認識をもち、主体的に行動したいと思っています。SDGs17の目標達成に向けて、企業、学校、行政、市民の協働をより強固なものとし「一人の百歩より、百人で一歩ずつ」をモットーに市民への影響力を自覚した上で、自信を持って行動していきたいと思っています。



ゼニタナゴの生息地調査風景

自己紹介

NPO 法人岩手県環境カウンセラー協議会は、組織化後 23 年を経過し、市民・行政・企業、及び環境 NPO 団体との環境パートナーシップを構築し、環境配慮型の社会の実現を目指すため、下記のような活動を行っています。

1. 環境教育活動：行政や市民と連携し、環境教育の指導者を目指す人への情報提供及びスキルアップセミナーの協働開催
2. 環境カウンセラー及び市民への ICT 教育の実施
3. 環境カウンセラー制度の普及促進活動の支援

これまでの取組

① 環境教育の指導者の育成のために、環境の基本的な知識を会得する体験型セミナーの実施

岩手県は海、山、川に恵まれた自然を有しており、その自然を守るための過去の負の遺産の検証、自然に親しみそこから得られる情報の取得、集合型の教育を指導する場合のファシリテーション能力の向上等のセミナーを行政、及び環境団体と協働し実施してきた。

岩手県は四国の全面積に等しい大きさで、東北 6 県で最も広い面積を保有し、過去に廃棄物の不法投棄事件があり、関東方面からの廃棄物が岩手県県北と青森県南部地区に不法投棄され、このような現地を確認することでの体験的な環境学習、及び環境カ

地域特別貢献賞（事業者部門）

NPO 法人岩手県環境カウンセラー協議会

表彰理由

岩手県内全域で地域課題に対応するため、環境保全活動を展開する人材を育成する「いわて環境塾」を開催した。また、環境省と連携して環境カウンセラー研修や環境教育・環境学習指導者養成セミナーを運営したほか、企業の環境経営指導や、各種研修会に講師を派遣し、環境教育の促進に貢献した。さらに、環境カウンセラーオンライン活用セミナー開催や環境カウンセラー利活用の広報活動に取り組んでいる。

ウンセラーとしてのファシリテーション能力をアップするための研修の提供を含めた環境指導者の育成に関わってきた。



環境学習研修開催の様子

② 環境カウンセラーや市民の ICT 教育の実施

コロナ影響をうけ、ここ 3 年間対面での活動が停滞した。その間に、ICT 教育を環境カウンセラーや市民に提供すべく実践型のスキルアップセミナーを実施、かつ企業者への環境マネジメントセミナーで、必要な PC スキルの提供を行ってきた。



1_ウェブ会議システム「Zoom」の操作方法を学ぶ様子
2_会員の皆さん(一番左:林理事長)

ICT 実践講座開催時の市広掲載記事

③ 環境カウンセラー制度の普及促進活動

環境カウンセラーの高齢化に伴い、環境カウンセラー登録希望者の発掘活動を行っている。その普及活動の内容は、当協議会に所属する環境カウンセラー全員が行うことをスローガンに、行政（県・市・町・環境 NPO 団体等）を訪問することで協力を求め実践した。その際に利用した治具は、ここ 2 年間に環境カウンセラー全国連合会が作成したポスター及びパンフレットを持参し、環境省、NPO 法人環境カウンセラー全国連合会、及び当協議会等が三位一体で推進している応募促進活動であることを明確にした広報活動を行った。その結果、「職員のための脱炭素セミナー」の指導講師依頼及び「いわて脱炭素化経営企業等認定制度」の講師等の依頼をうけ、行政とのパートナーシップを構築することができた。



普及促進活動風景



配布したカウンセラー応募パンフ



令和 4 年度と令和 5 年度配布ポスター例

苦勞した点・改良点

組織化した当時の環境カウンセラーが高齢化し、かつ減少傾向をたどっています。当協議会も会員の減少は確実に起きております。設立当時の環境に関する強い思いが希薄化し、環境問題は、特に地球温暖化問題や生物多様性などへと関心度が移行し、コロナの影響もあり、環境カウンセラーの活動に多くの変化がみられるようになりました。特に高齢化した環境カウンセラーにも、SNS の利用や ICT スキルの向上が望まれます。

環境活動は各環境団体や行政とのパートナーシップが不可欠で、環境カウンセラーの個人プレーでは成果は限定的であることを知らされました。各団体とパートナーシップを構築し、若い世代への継承を心がけ活動しています。

今後に向けて

環境カウンセラーの登録によるメリットの情報を発信し、新しい環境カウンセラーが増え、活動が活発化するためには、特に、行政や他の環境団体とパートナーシップを構築し、協働にて活動を前進させることと考え行動します。